

会誌編集委員会

女子部

Number
7

女性研究者のための交流会

筑波大学 五十嵐 悠紀

編集委員会女子部のコラムが始まって半年がたちました。コラムもすでに3周目。その間にはFIT2014で女子部番外編としてパネルディスカッションをするなどの活動も行ってきました。女性研究者がまだまだマイノリティな存在だからでしょうか、このような機会があるたびに女性の結束力を感じています。

ところで私は今、日本学術振興会の特別研究員 RPD という制度に採用されて研究を行っています。通称「ガクシン」と呼ばれるこの制度の研究員には、博士課程を支援する「DC」、博士号取得後のポスドクを支援する「PD」そして、海外へ留学を支援する「海外学振」などさまざまな支援が用意されているのですが、そのうちの1つが「RPD」です。DCやPD、海外学振は大学に入ると比較的よく聞かれますが、「RPD」をご存知の方はあまりいらっしゃらないのではないのでしょうか。

「子育て支援や学術研究分野における男女共同参画の観点から、出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰できるように支援する制度」として創設された学振 RPD。基本的には、任期も研究費も PD と同等で、違いは「出産または子の養育のために、研究活動を中断した者」だけが応募できる制度です。面接でも通常は研究内容をプレゼンしますが、RPD では研究内容に加えて、育児状況も説明します。

この学振 RPD では、毎年研究活動における出産・育児の課題および今後の研究展望などの意見交換を目的とした「研究交流会」が毎年開催されており、今年も2014年7月に開催されました^{☆1}。日本学術振興会の名誉特別

研究員でおられる秋篠宮妃殿下のご臨席を賜り、すべての分野の RPD 採用者が集まって、研究紹介や現状の育児の状況を発表し、意見交換するというものです。人文学、社会科学、医歯薬学、農学などすべての分野の採用者が集まる異例の機会、工学の分野からの出席者は、私ただ1人。「5年以内に産休・育休を取得している現役研究者」というのが唯一の共通点の中、たくさんの情報交換をして有意義な時間を過ごしてきました。分野が異なると、想定すべき育児との両立の問題なども異なってきます。しかし、みなさん本当に研究が好きで、そして単身赴任や海外留学、子どもの闘病など、さまざまな困難な状況に立ち向かいながらも、育児との両立をされていることを実感。私ももっともっと頑張らなければ、と前向きな気持ちになって帰ってきました。

このような女性研究者の集まる交流会、国内ではなかなかないのが現状なのですが、私は数名の仲間とともに有志の活動として、情報処理学会シンポジウム「インタラクション」の会期中に女子ランチ会（正式名称：Women's Luncheon）を2013年から開催してきました^{☆2}。女子学生や若手女性研究者を対象として、昼食休憩の時間を利用して、お弁当を食べながら、キャリアや結婚、出産育児のタイミングなど意見交換をする機会として好評いただいているようです。2015年も同様のイベントを行う予定ですので、ご興味のある女子学生さん、女性研究者の方は、ぜひ Web ページの情報をチェックしてみてください。

^{☆1} <http://www.jsps.go.jp/information/index4.html>

^{☆2} <http://tinyurl.com/i2013womens>
<http://tinyurl.com/i2014womens>

旅好き女子 Part2 は次号に回し、突然ですが、ばそ女^{☆1}の数を増やそうプロジェクトにご協力ください。というのが今日のテーマです。

理系の女子としてリケジョという言葉は定着しつつあります。高大連携活動として私が毎年行っている千葉県立柏の葉高等学校でのプログラミング講座で、ばそ女という言葉をつくってみました。9月13日のLive E! シンポジウムにて、柏の葉高等学校の滑川先生が発表！これから、ばそ女という言葉を行きわたらせましょう！

#すでにある言葉なのかもしれませんがその場合はご容赦を！

このプログラミング講座は、数年前から柏の葉高等学校のSPP^{☆2}の取組みの中で私が携わっている講座です。LiveE! プロジェクト^{☆3}（気象等の環境情報を共有する基盤を発展させ社会のために活用することを目的としている組織）が関連している組織の設置しているセンサからのデータを取得して可視化するようなプログラムを例に、実用的なプログラミングができるスキル獲得を目指しています。今年で3年目となるこの講座、最初は女子生徒さんの数が講座が進むにつれて0に近づく（元々初回参加者が1とか2だったし）という感じでしたが、今年はおおよそ20名中5、6名が女子生徒さんで、最後の作品発表には女子グループで、女子ならではのデザイン豊かな作品を作って発表してくれました。千葉県の中に設置された気象センサからのデータを取得して地図上に表示するアプリケーションです。プログラムというどうしても敷居が高いイメージがあるようでしたが、講座を受けて、デザイン性のあるページが作れることが分かるととても楽しそうでした。その名も「女性の女性による女性のための千葉県地図」！

☆1 ばそ女の詳しい説明は柏の葉高等学校のこちらのWebページをご覧ください。

http://cis.kashiwanoha.ed.jp/?page_id=1137#20140724

☆2 科学技術、理科、数学に関する観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な学習活動を支援する目的で科学技術振興機構が行っている「サイエンス・パートナーシップ・プログラム」の略。

☆3 <http://www.live-e.org/>

そのときに、理系女子を表すリケジョという言葉はあるけれど、プログラミングやコンピュータに携わる女子を表す言葉はないよねという話になり、先生と女子生徒さんといろいろ考えました。

パソコン女子転じてパソ女子、パソ女、プログラミング女子転じてプロ女、などいくつか候補ができました。

ばそ女を増やそうプロジェクトに戻りますが…女性は特に、ファッションやカラー、匂いなどに興味がありますし、高校生ですと、ぬいぐるみとか可愛いものを自分で作れる！となると俄然、眼がキラキラしますね。でするので、すでに、このコラムでおなじみの五十嵐さんが研究されているぬいぐるみモデリングとか、辻田さんが研究なさっていたという遠距離恋愛者の間の隙間を埋めるための試み（個人的には、遠距離恋愛中の相手が洗濯機を回したら自分の家の洗濯機も回るとか急に電気が入ったらちょっと危険かもしれないけどそういったことは後回しにして、発想が面白いなと思ったりします）などそういう発想をうまく組み合わせたイベントを行えないかな〜と少し思ったりしています。

すでに理数科目に重点を置き、先進的な教育を実践する「スーパーサイエンスハイスクール」（SSH）に文部科学省から指定されている北関東の女子高6校と、お茶の水女子大学、東京大学の2大学が、高大連携により研究を共有する体験学習を開催したと埼玉新聞にも載っています^{☆4}。

私自身何か具体的にばそ女を広めるプロジェクトのイベントを考えているわけではないのですが、まずは会誌で特集とか組めるといいな〜と思っています。料理とか、ファッション、アロマ、などプログラミングとは一見関係のないようなキーワードが実はマッチしたりするかもしれませんね。

何かアイディアがある方はぜひ、ご協力いただければ嬉しいです。

☆4 <http://www.saitama-np.co.jp/news/2014/08/28/10.html>

.....